

Japanese Institute of Landscape Architecture

学会広報

平成十八年四月二十八日発行

第18巻・第1号

平成18年度全国大会案内	1
平成18年度見学会案内	4
全国大会における研究発表会の形式の変更について	5
平成18年度全国大会研究発表会セッション（案）	6
海外の日本庭園シンポジウム	
－海を渡った日本庭園のこれまでとこれから	13
第9回日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及び シンポジウム開催案内	14
平成18年度日本造園学会九州支部大会案内	16
「造園技術報告集4 2007」の投稿募集	17
文献紹介	19
平成17年度関西支部大会事例・研究報告会発表会抄録	26

〈編集〉(社)日本造園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

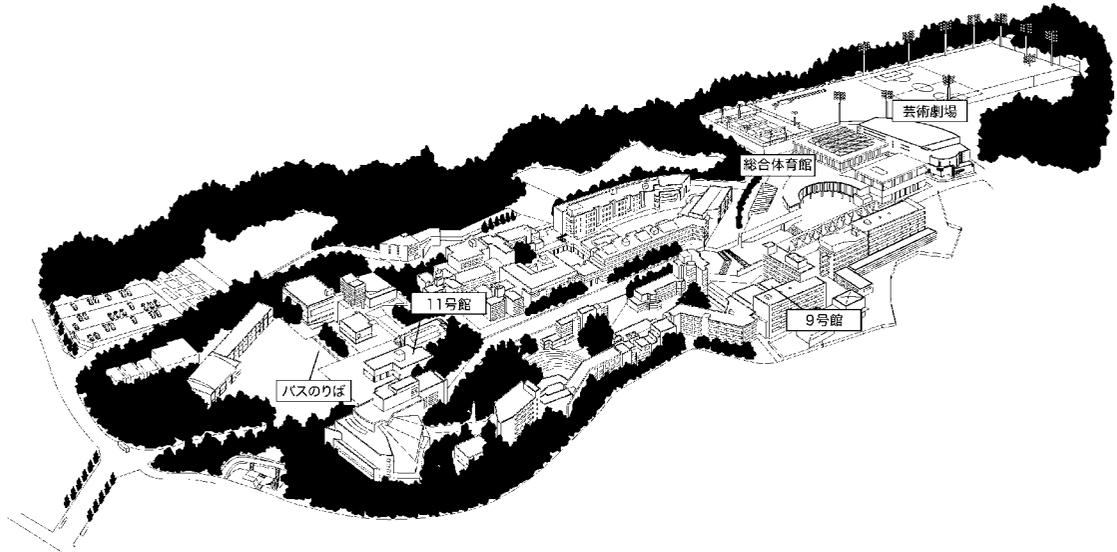
TEL 03-5459-0515、FAX 03-5459-0516

平成18年度日本造園学会全国大会案内

平成18年度全国大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の多数のご参加をお待ち申し上げます。
社団法人日本造園学会

- ◆**2006年5月19日（金）見学会** 10：00～17：00（受付9：30～）
見学先：なんばパークスー大泉緑地－天王寺動物園－都市緑化フェア（大阪城公園）
- ◆**2006年5月20日（土）総会・ポスターセッション・ワークショップ**
学会賞表彰式・受賞者講演会・舞台公演・懇親会
総会 11：00～12：00（受付10：30～）
会場：大阪芸術大学9号館101教室
ポスターセッション：生態工学研究委員会主催企画展示、関西支部主催ポスター、RLA主催ポスター ほか
会場：大阪芸術大学体育館ギャラリー 12：00～17：30
ワークショップ等 12：30～13：50
JABEE委員会主催（造園関連分野におけるJABEE（技術者教育認定機構）審査への対応とその成果）
造園CPD推進委員会主催（造園CPDの現状と今後の課題）
大阪芸術大学主催（特殊緑化のフロンティア－屋上・壁面・室内緑化の最新事情－）
関西支部主催（ランドスケープや緑景観の視点から捉えた景観法）
会場：大阪芸術大学9号館
学会賞表彰式・受賞者講演会・日本農学賞受賞者講演 14：00～16：00
舞台公演「庭園の響き」 16：15～17：45
会場：大阪芸術大学芸術劇場
懇親会 18：00～20：00
会場：大阪芸術大学第一食堂
- ◆**2006年5月21日（日）研究発表会・ポスターセッション・ワークショップ**
研究発表会 9：30～18：00（受付9：00～）
ポスターセッション：生態工学企画展示、関西支部主催ポスター、RLA主催ポスター ほか
会場：大阪芸術大学体育館ギャラリー 9：30～17：30
ポスターセッションコアタイム 13：15～14：15
ワークショップ 14：30～18：00
企画委員会主催（国土形成計画と日本造園学会の役割） 14：30～16：00
国際委員会主催（外国人研究者・留学生・日本人学生交流会
「国境を越えたランドスケープを考える」） 14：30～16：00
RLA主催（2006年RLA大阪集会「ランドスケープアーキテクトの社会的役割」） 16：30～18：00
会場：大阪芸術大学9号館
- ◆**2006年5月22日（月）分科会・企画展示** 9：30～16：45（受付9：00～）
会場：エルおおさか 大阪府大阪市中央区北浜東3-14
第一会場：アーバニズムとどう向き合うか その4 9：30～11：30
人口減少社会におけるランドスケープのデザイン
ランドスケープ近代化遺産を考える 12：30～14：30
－近代ランドスケープの遺産の保全に向けて－
海外の日本庭園－海を渡った日本庭園のこれまでとこれから 14：45～16：45
第二会場：公園緑地の利用と調査2 9：30～11：30
指定管理者制度と造園技術の今後の展開について 12：30～14：30
公共工事の品質確保法とランドスケープ技術 14：45～16：45
第三会場：生態工学（パネル展示） 9：30～11：30
造園分野における緑の療法的効果に関する取組み 12：30～14：30
外来種問題とエコロジカルマネジメントシステム 14：45～16：45
- 参加費：大会参加費：4,000円（大学院生・学部生2,000円）（分科会等資料代含む）
懇親会費：4,000円（大学院生・学部生2,500円）
分科会のみ参加費：2,000円（資料代を含む）
申し込み：大会参加、懇親会、分科会への参加希望者は当日申し受けます。会場受付で参加費をお支払いください。
- 大会に関する問い合わせ：〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F
Tel 03-5459-0515, Fax 03-5459-0516

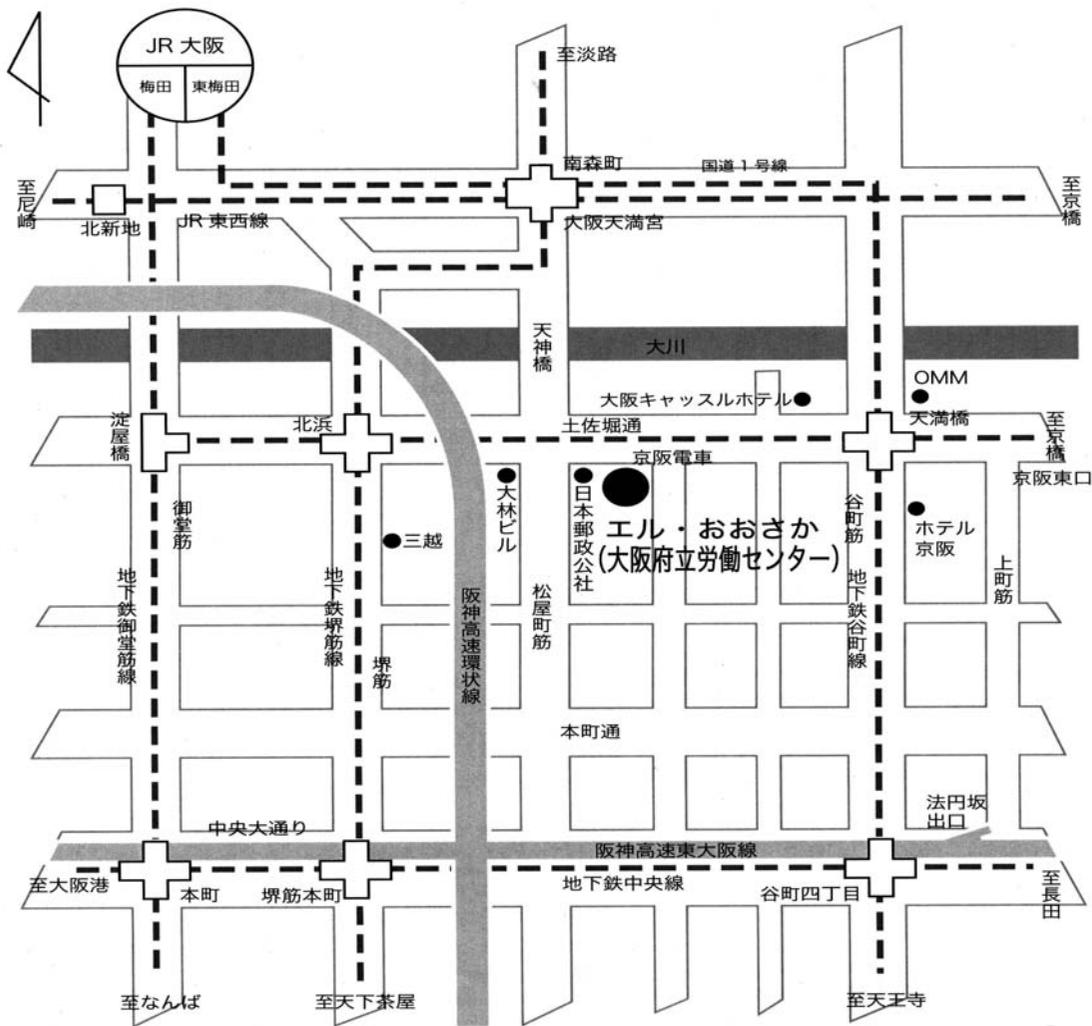
交通案内



※なお所要時間ですが、

- ・新大阪から地下鉄御堂筋線經由天王寺駅 約21分
- ・天王寺から徒歩で近鉄阿倍野橋 徒歩3分
- ・近鉄阿倍野橋から近鉄南大阪線古市駅經由喜志駅 約23分
(準急 河内長野行をご利用いただくと乗り換えなしで便利です)
- ・喜志駅から学バス 約15分
(いずれも待ち時間含まず)

とお考えください。



エル・おおさか

〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14

TEL.06-6942-0001(代)

FAX.06-6942-1933

ホームページ <http://mic.e-osaka.ne.jp/l-osaka>

メールアドレス ork@mic.e-osaka.ne.jp

Ⓜ車でお越しの場合

京阪電車・地下鉄谷町線「天満橋駅」から西へ300m

京阪電車・地下鉄堺筋線「北浜駅」東へ500m

地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」東へ1,200m

JR東西線「大阪天満宮駅」南へ850m

Ⓜ車でお越しの場合

阪神高速東大阪線、法円坂出口を左折して直進、京阪東口交差点左折、西へ信号5つ目

平成18年度日本造園学会見学会案内

平成18年度の全国大会は、大阪芸術大学（大阪府南河内郡河南町）において開催されます。時期を同じくして、第23回全国都市緑化フェアが大阪城公園を中心として開催されます。この視察を含めて、現在注目を集めている屋上緑化の先進事例であるなんばパークス、広域的な緑地計画の一環として造られた大阪四大緑地の一つである大泉緑地、生態的展示手法を取り入れた天王寺動物園をご案内する見学会を行います。どうぞ皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■開催日時：平成18年5月19日（金）午前10時～午後5時

■集合場所：なんばパークス入口（地下鉄御堂筋線なんば駅、南海電車なんば駅）

■スケジュール：

- 9：30 集合および受付
- 10：00 なんばパークス パークスガーデン見学
- 11：00 なんばパークス 出発（バスにて移動）
- 11：30 大泉緑地 到着 見学
- 12：30 大泉緑地 出発
- 13：00 天王寺動物園 到着
食事（天王寺公園内、レストランふれあい）
天王寺動物園 見学
- 15：00 天王寺動物園 出発
- 15：30 大阪城都市緑化フェア会場 到着
- 17：00 会場にて解散

■定員：45名。先着順に受け付けます。なお上記コースの途中から参加することも可能です。

■参加費：4,000円（昼食代、天王寺動物園入場料、フェア入場料含む）

■申込方法：見学会への参加を希望される方は、はがきもしくはファックスで5月10日までに学会事務局宛に申し込みください。期日を過ぎた場合は、電話にて参加の可否を確認してください。（参加希望者には後日、詳細なご案内を送付致します。）

■見学地案内

なんばパークス

大阪球場跡地を中心に行なわれた「難波再開発計画」のリーディングプロジェクトである商業・オフィス複合都市施設。地上9階建ての商業施設の段丘状の屋上部分が、民間都市開発としてはわが国最大級の屋上庭園となっている。商業施設と屋上庭園部分が一体となって生み出される、屋上庭園の新たなかたちを見学する。

大泉緑地

大阪府が、1964年に「大阪都市緑化計画」の一環として着工した。服部、久宝寺、鶴見とならぶ4大緑地の一つ。95.5haの敷地は、芝生広場と大池を中心にゆるやかな丘陵や疎林からなり、サイクルどろんこ広場等ののびやかな遊技場も特徴の自然風景式の公園である。これらとともに、わが国ではじめて計画当初からユニバーサルデザインをコンセプトとして造られた「ふれあいの庭」等を見学する。

天王寺動物園

天王寺動物園は、野生動物がくらす生息地の環境の再現をめざす、生態的展示の実現にとりくみ、造園の力で展示をよみがえらせた動物園として注目を集めている。現地を調査して造られたアジアの森や、竣工目前のサバンナ肉食ゾーンを見学する。都心部にこれらの環境を創りだしたシナリオと、それを具体化する空間デザインの原則について紹介する。

第23回全国都市緑化おおさかフェア 大阪城会場

大阪市、都市緑化基金の共催で開催されるおおさかフェアでは、「ひとが動く、まちがかわる～花と緑の晴れ舞台、大阪城を起点として～」を開催テーマとして、多くのまちなか会場において多彩で自主的な緑化活動が展開される。主会場である大阪城公園は、公園が持つ貴重な緑の資源と歴史・文化を現代的に融合し、観光都市にふさわしい賑わいのある空間をめざしている。

全国大会における研究発表会の形式の変更について

論文集刊行委員会 委員長 藤井英二郎
学術委員会 委員長 宮城 俊作

(社)日本造園学会では、平成17年度の総会において承認された『学会ビジョン』に基づき、ビジョントaskフォース委員会（委員長・横張真他7名）ならびに理事会において、ビジョンの実現にむけた協議をすすめてきました。その成果のひとつとして、学会員相互の直接コミュニケーションの場である全国大会の活性化のため、平成18年度の大会から研究発表会の形式を試行的に変更することにいたしました。つきましては、下記の具体的な内容をよくご理解いただき、発表会における議論の活性化にご協力いただきたくお願いいたします。

1. セッションの形式

- ・研究の対象、方法等に関連性が認められる論文発表4～6件をひとまとめのセッションとし、それらに共通するテーマを掲げる。
- ・各セッションは90分（15分程度の延長可）とし、その中で研究論文の発表と討論を行う。
- ・研究発表は、論文集に掲載された研究論文の内容をプレゼンテーションするとともに、セッションにおける討論の話題提供としての性格をもつ。

2. 発表者・共著者の役割

- ・発表者と共著者は事前に座長ならびにセッションの他の発表者と十分なコミュニケーションをとり、セッションの共通テーマと自身の発表内容との関連について理解を深めておく。
- ・発表者は、自身の研究論文の内容を簡潔にプレゼンテーションする（7分以内）とともに、研究成果に基づいてセッションの共通テーマや論点に関する自身の考えを表明する（3分以内）。
- ・発表者と共著者は、セッションにおける総合討論に参加する。特に若手の研究者が発表者となる場合には、共著者の積極的な参加が望まれる。

3. 座長の役割

- ・担当するセッションにおいて発表される研究論文を事前に熟読し、各論文の内容とセッションのテーマとの関連について理解を深めておく。また、必要に応じてセッションの共通テーマを新たに設定する。
- ・担当するセッションにおける研究の発表者・共著者と事前に十分なコミュニケーションをとり、総合討論における論点ならびにセッションの進め方等について協議しておく。必要に応じて、研究発表において重点を置くポイント等について発表者と協議を行う。
- ・担当するセッションの冒頭において、セッションの主旨ならびに共通テーマと論点について簡潔にプレゼンテーション（5分以内）する。
- ・セッションのスムーズな進行とともに、総合討論のモデレーターとして議論の活性化につとめ、セッションの終了時にとりまとめと総括（5分以内）を行う。
- ・必要に応じて、セッションのテーマに精通する学会員に総合討論におけるコメンテーターとしての参加を要請することができる。

4. セッションの進め方

- (1) 座長による主旨説明ならびに論点に関するプレゼンテーション（5分以内）
- (2) 研究発表（論文の内容7分以内・セッションの論点に関する見解3分以内）×発表者数
- (3) 発表者・共著者、コメンテーター、参加者による総合討論・個別討論
- (4) 座長による討論のとりまとめと総括（5分以内）

5. 事前準備

- ・各セッションを円滑にすすめ、討論を活性化するために、座長と発表者・共著者、コメンテーター（必要に応じて）の間で電子メール等を利用した十分なコミュニケーションをはかる。
- ・座長は、発表される研究論文を事前に熟読し、それらの知見に基づく討論の論点を明確化するとともに発表者・共著書等に周知し、討論の進め方等に関する協議を行う。
- ・研究発表の順番については、セッションのテーマや討論のすすめ方等に鑑み、発表者と協議のうえ任意に組み替えることができるものとする。

平成18年度全国大会研究発表会セッション（案）

※なお、各セッションタイトル等については現時点ではあくまで案であり、今後変更になることがあります。

【第一会場】	発表時間：11：30～18：00
庭園史研究の視程 ～ 庭園史研究は何をめざすのか？	11：30～13：00
庭園設計のための空間分析手法	14：30～16：00
都市のオープンスペースとランドスケープデザイン	16：30～18：00
【第二会場】	発表時間：11：30～18：00
地域の景観・環境資源の評価と保全	11：30～13：00
景観の構造・構成論 ～ 解釈論を超えるために	14：30～16：00
自然の風致に関わる研究の現在	16：30～18：00※
緑のマネジメントをめぐる現代的課題	16：30～18：00※
【第三会場】	発表時間：9：30～18：00
利用者の行動や活動の分析は公園緑地の活性化につながるか	9：30～11：00
住民参加論 ～ 住民参加を街づくりの普遍解とするために	11：30～13：00
持続可能なコミュニティランドスケープの形成手法	14：30～16：00
子供の遊びと学びのための緑地環境の計画・管理	16：30～18：00
【第四会場】	発表時間：9：30～18：00
森林の再生と維持の課題	9：30～11：00
里山等の都市近郊緑地の保全と管理	11：30～13：00
鳥の棲む緑地づくり	14：30～16：00
環境を指標する生き物たち	16：30～18：00
【第五会場】	発表時間：9：30～18：00
地球環境に資する緑の効果を把握する	9：30～11：00
緑をめぐる人間の知覚研究とその展開	11：30～13：00
様々な緑化植物の特性と可能性	14：30～16：00※
外来草本種の生態学的特性	14：30～16：00※
植物の生育特性（環境）の解明と生物多様性の保全	16：30～18：00
【第六会場】	発表時間：11：30～16：00
景観環境管理計画における情報化の可能性	11：30～13：00
自然公園の環境評価と利用の適正化にむけて	14：30～16：00

※印のセッションは、同じ時間帯に2つの短いセッションを連続して開催します。順序等については未定です。

平成18年度全国大会研究発表会プログラム

【第一会場】

発表時間：11：30～18：00

No.	頁	庭園史研究の視程 ～庭園史研究は何をめざすのか～	
1		新宿御苑の設計者アンリ・マルチネに関する考察	牧 大次郎・鈴木 誠・杉尾伸太郎
2		後水尾院サロンと宮庭庭園の展開	町田 香
3		ハハーの起源とその変容過程について	若生 謙二
4		平城宮第一次大極殿院の設計思想	内田 和伸
庭園設計のための空間分析手法			
5		イサム・ノグチの萬来舎庭園とリーダーズ・ダイジェスト東京支社庭園について	田井 洋子・佐々木邦博
6		月光環境下における禅宗様庭園のシミュレーション分析	三谷 徹・岡部佳代子
7		中国・頤和園における煉瓦彫刻からみた庭園空間の表現と特徴	章 俊華・赤坂 信
8		英国の自然埋葬地における景観的枠組の分析	武田 史朗・増田 昇
9		枯山水の景観構成にみる山水画の影響に関する一考察	関西 剛康
都市のオープンスペースとランドスケープデザイン			
10		ロンドンのラッセルスクエア再生作業にみる都市公共オープンスペースの再生	坂井 文
11		ニューヨーク市の3B I Dにおける街路景観整備の実態に関する考察	樋口 明彦・高尾 志忠
12		戦前期における風致地区制度の位置付けに関する歴史的考察	
			原 泰之・小野 良平・伊藤 弘・下村 彰男
13		千里丘陵の開発における地形の取り扱いと自然環境の構造	篠沢 健太・宮城 俊作・根本 哲夫
14		『多摩ニュータウン開発計画・自然地形案』にみる地形と空間構造の関係	
			根本 哲夫・宮城 俊作・篠沢 健太
《座 長》No.1～4：仲 隆裕（京都造形芸術大学）			
No.5～9：鈴木 誠（東京農業大学）			
No.10～14：土肥 真人（東京工業大学）			

【第二会場】

発表時間：11：30～18：00

No.	頁	地域の景観・環境資源の評価と保全	
1		野川の保全過程における計画思想に関する研究	中村 愛子・熊谷 洋一
2		秋田県能代と山形県庄内における海岸林に対する評価の差異の形成	伊藤 弘
3		長野市松代町東部に残る湧水と水路の現状と特徴	佐々木邦博・田井 洋子・山村 浩美
4		アクセス性からみた琵琶湖湖岸緑地と隣接集落とのつながりについての研究	
			今村 広大・村上 修一
5		地域景観保全の観点から捉えた牧草地の認識特性	
			山本 聡・長谷川紀子・藤原 道郎・岩崎 寛
景観の構造・構成論 ～解釈論を超えるために			

6	大型風力発電施設に対する周辺住民とビジターの景観評価特性および差異 大岸万里子・奥 敬一・深町加津枝・森本 幸裕
7	下郷町大内宿における集落景観の認識に関わるオモテの景観構造の特徴に関する研究 孫 鏞勲・下村 彰男・浜 泰一
8	テクノスケープ・リノベーションの意味論的研究 岡田 昌彰
9	広重の描いた「名所江戸百景」にみる水辺空間の構成に関する研究 須藤 訓平・渡部 一二
10	名勝史跡「坊津」にみる「坊津八景」の景観的意義とその保全条件に関する研究 石田尾博夫・包清 博之
自然の風致に関わる研究の現在	
11	戦前における「森林美学」から「風致施業」への展開 清水 裕子・伊藤 精悟・川崎 圭造
12	欧文文献における『背景』と『環境定位』の関係を扱った研究の系譜と特徴 高山 範理・田中 伸彦・辻 華欧利・青木 陽二
13	日独の森林イメージに関する比較研究 上田 裕文
緑のマネジメントをめぐる現代的課題	
14	歴史的庭園を維持管理する京都の造園業者の現状に関するアンケート調査 加藤 博・下村 孝
15	日米の緑地環境ホームページにおけるバリアフリー情報開示の現状とその特徴 美濃 伸之
16	樹木が落下直撃した事故の裁判例にみる管理者の法的責任と植栽管理内容の関係 細野 哲央
<p>《座 長》No.1～5：黒田 乃生（筑波大学） No.6～10：小野 良平（東京大学） No.11～13：赤坂 信（千葉大学） No.14～16：橘 俊光（兵庫県）</p>	

【第三会場】

発表時間：9：30～18：00

No.	頁	利用者の行動や活動の分析は公園緑地の活性化につながるか
1		前橋市の総合公園を事例とした地方都市における市街地大公園の利用的課題 塚田 伸也・岩間 佳之・湯沢 昭
2		G P Sを用いた新宿御苑における利用者の行動パターンに関する研究 山本 泰裕・伊藤 弘・小野 良平・下村 彰男
3		中国武漢の公園広場における太極拳の活動場所の空間特性に関する研究 戴 菲・章 俊華・田代 順孝
4		都市河川のオープンスペースに見られる地域住民の親水行動に関する研究 金 那英・畔柳 昭雄
5		ゲームによる公園再開発シミュレーションのフレームワーク 李 権ガク・鈴木 雅和
		住民参加論 ～住民参加を街づくりの普遍解とするために
6		今井川いこいの水辺における住民による管理運営がコミュニティ形成に及ぼした効果 駒田健太郎・渡辺 達三
7		神戸市における市民の植栽利用が街路樹の生育環境に与える影響とその認識に関する研究 松井美菜子・平田富士男

8	住民意識と学生意識にみる緑地との関わり方の現状と緑地活動への参加意欲 中島 敏博・田代 順孝・古谷 勝則
9	堺市金岡町における住民発意型まちづくり活動の発展プロセスに関する研究 柳川 豪・加我 宏之・下村 泰彦・増田 昇
10	兵庫県立有馬富士公園における住民参画型公園運営の課題と展望 藤本 真里・中瀬 勲
11	持続可能なコミュニティ・ランドスケープの形成手法 オーストラリア・シドニーの高齢者所有の庭園に対するガーデニングサービスに関する研究 伊藤美希子・杉田 早苗・土肥 真人
12	阪神淡路大震災を契機とした公園緑地における野外彫刻設置の変容に関する研究 石崎 奈美・福井 亘・斉藤 庸平
13	緑のイベント時におけるオープンガーデンの位置づけ 野中 勝利
14	京都市内の戸建て住宅で実施されている立面緑化の実態 岡田 準人・山崎 美幸・下村 孝・深町加津枝
15	地区レベルにおける住環境の評価手法に関する研究 藤居 良夫・河田 明博
16	復興まちづくり事業における地域らしさの確保と緑に関する研究 石田 紘之・斉藤 庸平
17	子供の遊びと学びのための緑地環境の計画・管理 校庭芝生化の近年の推移と支援者達の活動に関する研究 藤崎健一郎
18	昭和30年代における子どもの野外遊びを支えていた環境条件に関する研究 寺内 雅晃・加我 宏之・下村 泰彦・増田 昇
19	プレーパーク活動から捉えた都市公園の活性化に関する研究 宮 由美子・下村 泰彦・加我 宏之・増田 昇
20	校庭の巨樹を用いた環境教育受講経験が児童の意識に及ぼす影響 長友 大幸・下村 孝
<p>《座 長》No.1～5：村上 修一（滋賀県立大学） No.6～10：金子 忠一（東京農業大学） No.11～16：柳井 重人（千葉大学） No.17～20：菅 博嗣（あいランドスケープ）</p>	

【第四会場】

発表時間：9：30～18：00

No.	頁	森林の再生と維持の課題
1		樹幹齢と密度の異なるコナラ二次林の種子生産と実生の成長に関する比較 岩田 朋子・吉田 博宣・森本 淳子
2		松枯れ跡地における異なる伐採強度下での構成樹木の再生様式 山瀬敬太郎
3		六甲山におけるブナ・イヌブナ個体群の現状とブナ林の復元可能性 栃本 大介・石田 弘明・服部 保・福井 聡・浅見 佳世・武田 義明
4		兵庫県南東部、六甲山地における二次林の面積と種多様性の約50年間の変化 内田 圭・浅見 佳世・武田 義明
5		タケ類天狗巣病発症による竹林の衰退と種組成の変化 橋本 佳延・服部 保・小館 誓治・石田 弘明・鈴木 武
		里山等の都市近郊緑地の保全と管理

6	明治後期の日記にみる滋賀県西部の里山ランドスケープにおける山林資源利用のパターン 堀内 美緒・深町加津枝・奥 敬一・森本 幸裕
7	里地保全に関連する市町村条例の類型化に関する考察 三瓶 由紀・武内 和彦
8	埼玉県「見沼田んぼ福祉農園」の成立と展開に見る都市近郊緑地の福祉的活用の考察 石井 秀樹・齊藤 馨・猪瀬 浩平
9	都市近郊二次林の管理状況に対する管理者及び利用者の評価に関する研究 横山 明季・熊谷 洋一・伊藤 弘
10	市民による里山管理活動が植生と参加者の意識に与えるに影響 辰井 美保・藤井英二郎
鳥の棲む緑地づくり	
11	オオタカ (<i>Accipiter gentilis</i>) の営巣密度に影響する環境要因 松江 正彦・百瀬 浩・植田 陸之・藤原 宣夫
12	都市緑地における樹林地の構造と鳥類の利用について 岡崎 樹里・秋山 幸也・加藤 和弘
13	ハシボソガラスとハシブトガラスの営巣密度推定のための予測モデル構築 百瀬 浩・吉田保志子・山口 恭弘
14	京都市街地における樹洞を有する樹木の特徴 橋本 啓史・澤 邦之・田端 敬三・森本 幸裕
15	都市域の中・大規模樹林地における鳥類の種多様性と立地環境との関係 鶴川 健也・加藤 和弘
16	大阪市中心部の街路樹と越冬期の鳥類の出現状況の関係 一ノ瀬友博
環境を指標する生き物たち	
17	滋賀県におけるカヤネズミの生息適地要因 畠 佐代子・夏原 由博
18	多摩丘陵におけるカヤネズミの生息分布から見た生息適地の景観構造 黒田 貴綱・勝野 武彦
19	ゲンジボタルの分布に影響する環境要因の地域比較 富田 満・伊藤 浩二・加藤 和弘
20	琵琶湖に流入する砂防指定地小河川の魚類群集と生息環境の関係 鶴飼 剛平・奥 敬一・深町加津枝・堀内 美緒
21	棚田域における管理形態の違いから生じる植生と小動物相 (カエル類・ネズミ類) の関係 大澤 啓志・黒田 貴綱・勝野 武彦
<p>《座 長》 No.1～5：柴田 昌三 (京都大学) No.6～10：藤原 宣夫 (岐阜県立国際園芸アカデミー) No.11～16：葉山 嘉一 (日本大学) No.17～21：日置 佳之 (鳥取大学)</p>	

【第五会場】

発表時間：9：30～18：00

No.	頁	地球環境に資する緑の効果を把握する
1		樹種と階層構造が異なる樹林地の環境緩和機能に関するシミュレーション 橋田 祥子・大森 宏・輿水 肇・松尾 陽
2		樹冠被覆面積にもとづいた都市緑地の二酸化炭素固定量の推定に関する研究 市村 恒士
3		ジョブジャカルタ市に緑陰地の温熱快適性の効果に関する研究 インフル シティヌルルロフィコ・木下 剛・田代 順孝
4		メキシコマンネングサおよび芝生薄層緑化からの蒸発散量 大野 朋子・山本 聡・前中 久行
5		微気象緩和効果を目的に屋上に設置した簡易池の蒸発散量 中村 彰宏

6	WBGT、SET*による壁面緑化の温熱環境改善効果の評価 鈴木 弘孝・三坂 育夫・水谷 敦司・田代 順孝
7	緑をめぐる人間の知覚研究とその展開 対植に対する韓国人と日本人の眼球運動の特性に関する研究 朴 映建・須田 歩・藤井英二郎
8	生理・心理的応答からみた緑陰の視覚的快適性 多田 充・藤井英二郎
9	瞳孔反応の対光反応を考慮した感性情報処理システム構築の検証 黒川 敦・松本三紀雄・谷本 都栄・福岡 孝純
10	インテリア雑貨としての観葉植物の生育特性に関する研究 岩崎 寛・井上 紗代・山本 聡
11	様々な緑化植物の特性と可能性 アヤメ科植物によるカドミウムの吸収除去に関する研究 浅井 俊光・宮本 れい・水庭千鶴子・近藤 三雄
12	メノマンネングサとメキシコマンネングサの種子発芽特性 飯島健太郎・涌井 史郎・油井 正昭
13	高塩分濃度汽水域における浮島型緑化の可能性 山田 宏之・野中 昭枝・中島 敦司・中尾 史郎・養父志乃夫
14	外来草本種の生態学的特性 外来植物オオキンケイギク <i>Coreopsis lanceolata</i> の定着した半自然草地の種組成および群落構造と 遷移状況 斎藤 達也・大窪久美子
15	畜産草地研究所（那須塩原市）におけるタンポポ属植物の生育地特性と遺伝的構造 井手 任・植竹 朋子・芝池 博幸・楠本 良延・平舘俊太郎 矢野 初美・保谷 彰彦・吉村 泰幸・清水 短宏
16	植物の生育特性（環境）の解明と生物多様性の保全 東北地方のブナクラス域、国営みちのく杜の湖畔公園における森林管理と林床植生の変化 島瀬 頼子・大江 栄三・小栗ひとみ・松江 正彦・宇津木栄津子・井本 郁子
17	希少な沈水植物の保全における小規模なため池の役割 嶺田 拓也・石田 憲治
18	箱根山地におけるミツバツジ節の潜在的生育立地モデル 森本 淳子・勝野 武彦
19	大和葛城山におけるミヤコアオイの生育環境特性に関する研究 押田 佳子・箭木 剛之・上甫木昭春
20	九州の二次林におけるヤマツツジおよびコバノミツバツジの着花数と環境条件との関係 上原 三知・重松 敏則
<p>《座 長》 No.1～6：山田 宏之（和歌山大学） No.7～10：飯島健太郎（桐蔭横浜大学） No.11～13：高橋 輝昌（千葉大学） No.14～15：倉本 宣（明治大学） No.16～20：小林 達明（千葉大学）</p>	

【第六会場】

発表時間：11：30～16：00

No.	頁	景観環境管理計画における情報化の可能性
1		航空機から観測した多波長帯データを用いた里山の代表的な樹種区分に関する検討 瀬戸島政博・今井 靖晃・船橋 学・河合 雅己・勝木 俊雄
2		ラスターGISを用いた森林の周縁部と内部の分析手法に関する研究 小林 優介
3		植生型と地形依存性を考慮した天然林森林景観シミュレーションの構築 岡本 拓也・斎藤 馨
4		ビオトープタイプの組成とカエル類生息からみた小流域の評価手法に関する研究 片桐由希子・大澤 啓志・山下 英也・石川 幹子
5		篠山市における野生動物による農作物被害の分布特性とその影響要因に関する研究 川上 好古・上甫木昭春
自然公園の環境評価と利用の適正化に向けて		
6		自然公園の施設充実に果たした国民休暇村の役割 加治 隆・油井 正昭
7		知床国立公園の利用適正化にむけた計画策定内容及び手法に関する一考察 小林 昭裕
8		青木ヶ原樹海における利用者の環境配慮意識とガイドの必要性に関する研究 山本 清龍・本郷 哲郎
9		尾瀬ヶ原の休憩テラスから見た木道上の混雑感評価に関する研究 一場 博幸・下嶋 聖・古谷 勝則・麻生 恵
10		登山道補修に関する登山者と地域関係者の評価と課題 愛甲 哲也
《座 長》 No. 1～5：百瀬 浩（中央農業総合研究センター） No. 6～10：青木 陽二（国立環境研究所）		

日本造園学会全国大会分科会

海外の日本庭園シンポジウム

海を渡った日本庭園のこれまでとこれから

日 時：2006年5月22日（月）14：45～16：45（第1会場）

会 場：エル・おおさか（大阪府労働者センター）

〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14 TEL 06-6942-0001

■ 開催趣旨

日本国外に造られ世界各地にて公開されている日本庭園は400を優に越えている。そして、今も世界のどこかで新しい日本庭園造りが企画され、また実地に造られているのである。19世紀後半に始まった海外の日本庭園の歴史はすでに100年を超え、姉妹都市などの文化交流拠点として造られた日本庭園も100以上にのぼっている。

こうした世界に広がる日本庭園の現状を考え、日本造園学会では過去5年間の年月をかけて「海外の日本庭園」の実情について調査してきた。

その成果が今春『海外の日本庭園』に関する調査報告書として完成した。この報告書の内容にもとづき、調査担当者、海外の日本庭園造りを支えた人々が集い、これまで海外に造られてきた日本庭園の歴史と現状を報告・検討しつつ、日本庭園による国際社会における文化交流の将来を展望する。

■ 参加予定者

日本造園学会会員、在日本各国大使館文化交流担当者、各自治体海外交流担当者、日本庭園研究者、海外造園経験者、造園学関連学生、ほか日本庭園や海外文化交流に関心を持つ方々

■ プログラム（予定）

- 14：45 開催趣旨 大貫誠二（財団法人都市緑化基金）
- 14：55 話題提供1：海を渡った日本庭園 - 海外の日本庭園の歴史
鈴木 誠（東京農業大学）
- 15：25 話題提供2：世界に広がる日本庭園 - 海外の日本庭園の現状
福原成雄（大阪芸術大学）
- 15：40 話題提供3：交流と交友の証となる日本庭園 - 日本庭園を通じた海外交流
赤坂 信（千葉大学）
- 15：55 話題提供4：海外での日本庭園づくり - 計画・設計・施工・管理の課題
武田 純（岐阜県立国際園芸アカデミー）
- 16：10 話題提供者他によるパネルディスカッション：進行 仲 隆裕（京都造形芸術大学）
「海を渡った日本庭園のこれまでとこれから」
- 16：45 閉会

■ 担 当：日本造園学会「海外の日本庭園」調査刊行委員会

Fax：03-5477-2625 E-mail：makoto@nodai.ac.jp

■ 協 賛：財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（予定）

■ 申込み：不要。ただし座席に限りがあり先着順。

■ 参加費：分科会だけの参加費として2,000円。

※当日会場にて「海外の日本庭園」調査報告書の頒布（有償）いたします。

第9回 日韓中造園専門家会議開催のお知らせ（第1報）

日本造園学会は、韓国造景学会、中国風景園林学会の協力のもとに、第9回日韓中造園専門家会議を、2006年8月28日～30日に日本造園学会九州支部と共同開催で長崎市にて実施することになりました。今回は以下のようなテーマを設け、多方面からの投稿を呼びかけます。とくに防災や技術分野からの投稿を歓迎します。みなさま、奮ってご参加下さい。

1. テーマ：東アジアの造園文化の普遍性と独自性

The Universality and Regionality of Landscape Culture in East Asian Region

テーマ解題：近年、東アジアにおいて津波や地震をはじめとする自然災害が起こっている。自然のもつダイナミズムに対する防災意識の向上が望まれるが、一方そのネガティブな面だけではなく、ポジティブな面もあわせて考えるべき時代である。すなわち、自然のもたらす脅威と恩恵をどのように受けとめ、そこに生まれる文化がどのような風景や造園技術を生み出してきたかを知らうとする視点をこのテーマの礎としたい。

サブテーマ：

①地域固有の造園文化

Vernacular Landscape Culture

②アジアの交流における造園の普遍性

Universality of Landscape Architecture in East Asian Region and Cross-fertilization

③造園と自然・文化・人間の共生

Symbiosis of Nature, Culture and Human, and Landscape

2. 日 程

2006年8月28日 開会式・サブテーマスピーチ

29日 学生フォーラム等／基調講演・シンポジウム／交流会

30日 見学会（長崎市内その他） または 九州支部大会（総会・発表会）

3. 開催地 長崎市 長崎ブリックホール

4. 主 催 日本造園学会、韓国造景学会、中国風景園林学会、日本造園学会九州支部

5. 論文募集

上記サブテーマに関する誌上参加の公募論文（論文提出のみで口頭発表の義務はありません。）を下記の要領で募集します。

アブストラクト（英語で100ワード・母国語300字） 5月2日（火）締切

本論文（英語） 5月24日（水）締切

6. 学生フォーラム等の開催

学生フォーラムを予定しています。テーマは本大会のテーマに関連するものとします。韓国、中国、日本から各2名、計6名の学生が各自の研究や作品の発表（母国語による）をおこないます。発表時間は10分です。発表者の決定については、各国の学会に一任します。なお、この発表は論文集に掲載されませんが、内容を示す簡単なアブストラクト（英語または日本語）を日本造園学会（JILA）事務局まで送付して下さい。締切は7月31日とします。

（中国と日本と韓国の学生コンペが予定されていますが、その詳細は後日学会のホームページでお知らせします。）

7. 論文執筆要領

(1) 原稿の形式

①原稿のページ数はA4サイズ4ないし6ページとする。原則として、マイクロソフトワード2000（イングリッシュ）を用いて作成する。

②ページ40行、フォントは Times New Roman、サイズは表題12ポイント、著者の氏名・所属は11ポイント、キーワードは10ポイント（イタリック）、アブストラクト及び本文は10ポイントとする。なお、

表題・著者名・著者所属は、中央揃えとする。

③レイアウトは、上下マージン30mm, 左右マージン30mmとする。

④図表等については、割付けて、その位置に貼り付ける。

(2) 論文の構成

論文構成は、次の順序とする。①表題, ②著者名, ③著者所属, ④アブストラクト (400~500ワード), ⑤キーワード (5ワード), ⑥本文, ⑦補注・文献等とする。

*「謝辞」は投稿時には記入せず、本原稿 (校閲後の最終原稿) に記載する。

(3) 補注・文献等の記載形式

補注・文献等は、次の表記方式を参考にする。

Suzuki, T. (1995) A study on historical Japanese gardens, Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 58(5), 1001-1004.

Suzuki, T. and Y. Tanaka (1996) Contemporary Japanese Architecture, pp.1-40. Zoen-shuppan, Tokyo.

Suzuki, et al. (1994) The future of Japanese Landscape. In Modern Landscapes of Japan (Y. Tanaka, ed.), pp.100-150, Engei-sha, Tokyo.

(4) 投稿時の提出物

投稿にあたり提出するものは、論文 (図, 表, 写真を含む) コピー 3部とする。なお、事故にそなえて原文をとっておいて下さい。

(5) 日本語原稿

論文集への掲載が決定した後、発表者については、論文の日本語訳を提出して頂きます。

提出の期日、書式については、校閲後に通知します。

(6) 論文手数料

論文手数料として、論文 1 件につき、10000円を徴収します。これは、校閲から論文集掲載までの手数料となりますので、論文集への掲載が決定しましたら、郵便振替にて送金して下さい。

(7) 印刷原稿の提出

論文集への掲載が決定した論文は、印刷原稿として、論文受理通知が届いた後、定める期日までに原文 (図表等を貼付けたもの) およびフロッピーディスクに保存したものを提出していただきます。図・写真等の保存は400dpiとします。なお、原稿提出がないときは論文集に掲載しません。

8. その他

文法上のチェックは完了させておくこと

(1) 提出論文は主催者内に設置される校閲委員会において校閲を済ませたもののみを受け付けます。

(2) 提出物

○テキストのファイル、ハードコピー (郵送)

○送り先 日本造園学会事務局

○著者の自宅、勤務先の住所、FAX番号、メールアドレスを明記して下さい。

上記のような内容で行われますので、論文投稿希望者はアブストラクトを学会事務局まで期日までに、メール、FAXにて提出して下さい。なお、連絡等は下記までお願いします。

日本造園学会 (JILA) 事務局 松崎順郎宛

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館 6 F

TEL : 03-5459-0515 FAX : 03-5459-0516 E-mail : staff@landscapearchitecture.or.jp

日・韓・中国際学生造園デザインコンペの開催案内

●テーマ ; (未定)

●学生コンペの概要 ; (詳細は5月15日に以下のWebページで公開予定)

<http://www.design.kyusyu-u.ac.jp/~qzouen/h18compe.html>

●応募登録期間 ; (5月22~5月29日を予定)

●作品提出〆切 ; (8月中旬を予定)

なお、詳細は上記Webページで公開予定

平成18年度 日本造園学会九州支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の研究・事例報告の発表ならびに大会へのご参加をお待ちしております。なお、本大会は2006年8月28日～30日に行われる第9回日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及びシンポジウム（以下、JKCと略す）と合同して行われます。

■ 開催月日	平成18年8月29日（火）・30日（水）	
■ 開催場所	長崎県長崎市	（長崎ブリックホール）
■ 日 程	<第1日目> 8月29日（火）	
	1. 基調講演とシンポジウム	13:30 ～ 17:30
	2. 交流会	（ 夜 ）
	<第2日目> 8月30日（水）	
	1. 日本造園学会九州支部幹事会	10:00 ～ 11:30
	2. 支部総会	12:30 ～ 13:00
	3. 研究・事例報告会	13:00 ～ 16:00

- 最新情報 支部大会の最新情報は、下記のWEBサイトをご覧ください。
<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~qzouen/>

■ 事例・研究報告の申込み

研究・事例報告会で発表を希望される方は6月29日（木）までに、電子メール、または郵送・FAXのいずれかにより下記、支部事務局までお申し込みください。申し込みには、①発表者名（所属）、②発表題目（原稿提出時に変更可）、③連絡先（住所、電話、e-mail、FAX）をお知らせください。

申し込み後、送られてくる投稿・執筆要領にしたがって作成し、[A4判2ページ（4000字程度）]、7月29日（金）必着で、投稿・執筆要領が指定するあて先に送付してください。掲載料は、1報告につき3,000円です。

- 問合せ・申込み 日本造園学会九州支部事務局（担当：朝廣和夫）
 〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原4-9-1
 九州大学芸術工学研究院環境計画部門 内
 TEL/FAX 092-553-4480 E-mail qzouen@design.kyushu-u.ac.jp

「造園技術報告集 4 2007」の投稿募集

造園技術報告集の第4号に掲載する技術報告と論説を募集します。みなさまの日ごろの実務こそが造園技術の実践的研究ですから、その報告そして造園技術に関する論説をお待ちしています。わが国の造園技術には、「愛・地球博」においても発揮されたように、古典的伝統的技術から最新の造園科学までが混在しており、それらを幅広く知りたいという会員の強い声があります。より多くの報告に接することのできる誌面にしたいと望んでおりますので、熟練した技能をお持ちの方から新たな技術に邁進されている方まで、多くの会員からの投稿をお願い申し上げます。各位の経験則や自然科学的知見をふまえた造園の叡智にふれる報告や論説を戴きたく存じます。なお、投稿要領に若干の変更がありますので、投稿要領を熟読され、投稿されるようお願い申し上げます。なお、この造園技術報告集は、造園CPD制度の「Ⅱ. 論文等の発表」のうち、教育形態「(215, 216) 論文・総説・技術報告の発表(学術雑誌への査読付き発表)」に該当し、掲載された場合、筆頭者および連名者は定められた単位が取得できます。CPDの詳細については造園学会ホームページを参照してください。

造園技術報告集 4 2007 投稿要領

1. 投稿区分

(1)技術報告編：造園の広範な技術のうち一定性能を有する技術を対象とする。分野、規模、用途、地域(国外含む)などは問わないこととし、造園における調査、計画、設計、施工、施工管理、施工監理、運営管理、維持管理に関わる技術、造園建設に用いられる工法、資材あるいは事例を通じた報告などを対象とする。

(2)論説編：造園技術に対する評価、論考あるいは学術的価値の高い伝統的技術の記録、将来技術の展望、海外技術の紹介などを対象とする。

上記のいずれも投稿論文は未発表のものに限る。ただし、支部大会などで発表したものはこの限りではなく投稿できるものとする。

2. 投稿資格

投稿者は本会正会員に限る。ただし、共同執筆者には非会員を含むことができる。なお、投稿者は投稿する内容について必ず事前に関係者の合意を得ておくこと。

3. 投稿件数

第一執筆者としての投稿件数は、技術報告編、論説編併せて3件を上限とする。

4. 投稿方法

(1)投稿登録：2006(平成18)年6月30日までに、所定の投稿登録票(コピーあるいはホームページからのダウンロードも可)を学会事務局へ提出する。

(2)投稿：投稿登録後、当学会ホームページに掲載されている執筆要領に基づいて作成した原稿を、2006年8月31日までに学会事務局へ提出する。刷り上がりの標準頁数は、技術報告編、論説編ともに4頁とするが、2、6頁も認める。(奇数頁は認めない。)但し、6頁となる場合は、2頁分の印刷実費を著者が負担する。カラー印刷は行わない。

5. 審査方法

審査は技術報告集委員会にて依頼した校閲委員が校閲基準に基づいて行い、その結果を技術報告集委員会が著者に通知する。校閲は基本的に著者とその所属を伏せる形で行う。審査基準は以下のとおりと

する。

〔技術報告編〕①技術報告として、価値ある有用または新しい知見を有しているか、また結果に信頼性があるか。②記述は的確かつ明解に行われているか。③商業主義からの中立性を保っているか。

〔論説編〕①技術論説として、信頼性かつ客観性があるか。②記述は的確かつ明解に行われているか。③商業主義からの中立性を保っているか。

6. 校閲結果

校閲結果は2006(平成18)年10月30日までに投稿者に通知する。

7. 技術報告集の刊行

ランドスケープ研究増刊号として、2007(平成19)年1月に発行を予定。別刷りについては必要な人に限り、最低50部から受け付ける。別途作成実費を後日納入する。

8. 投稿料および掲載料

(1)投稿料：投稿料は1編10,000円とし、後日郵送される振込み用紙にて納入する。

(2)掲載料：技術報告集に掲載が決定した技術報告編、論説編ともに掲載料として1編20,000円納入する。但し、6頁となった場合は、頁数超過に対し、印刷費として別途30,000円を徴収する。採用通知書送付後に送られる振込用紙を用いて、原稿投稿と同時に振り込むこと。

9. 著作権

掲載記事の著作権は投稿者に帰属するが、その運用については本会が代行する。

10. その他

①投稿登録票は次頁掲載のコピーあるいは当学会ホームページ(<http://www.landscapearchitecture.or.jp/>)よりダウンロードしたものを利用すること。

②執筆要領は同じく学会ホームページよりダウンロードしたものを利用すること。万が一の事故に備え、各自控えを取っておくこと。また掲載原稿の作成に要する費用等は投稿者の負担とする。

11. 投稿・問合せ先

(社)日本造園学会事務局 造園技術報告集委員会
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館 6F

造園技術報告集 投稿整理票

整理番号		投稿受理日	2006年 月 日
投稿区分	技術報告編・論説編	原稿枚数	2・4・6枚
投稿分野 (複数可)	調査・計画・設計・施工・施工管理・施工監理・運営管理・維持管理・工法・ 資材・情報システム・伝統技術・事例・その他 ()		
表題			
代表投稿者			
連絡先	住所(勤務先・自宅)	所属	
	〒 <small>勤務先の場合は、組織名・所属・部署等を、自宅の場合は、建物(マンション/アパート)名を正確に記入して下さい。</small>		
	電話番号:		
	FAX番号:		
E-mail:			
共著者名			
共著者所属			
報告概要 または 論説概要			
キーワード (6個以内)			
別刷希望	しない・する (50 ・ 100 部)		

- 注1. 太線黒枠の中を正確に記入漏れがないよう記入して下さい。
 2. 「投稿区分」「投稿分野」「原稿枚数」「住所」「別刷希望」は該当する箇所に○印をつけて下さい。
 3. 「表題」は40字以内で内容が的確にわかるものにして下さい。副題、継続番号は避けて下さい。
 4. 連絡先は郵便物が確実に届くよう、自宅の場合は建物名(マンション/アパート名等)、勤務先の場合は組織名・所属・部署まで必ず記入して下さい。
 5. 「共著者名」「共著者所属」欄が不足の場合は、本用紙を複写して使用し、左上を綴じて下さい。この場合、2枚目は共著者情報以外の記入は必要ありません。
 6. 「報告概要または論説概要」には、内容について300字程度で簡潔な文章で記して下さい。
 7. 別刷を希望する場合、該当する必要部数のどちらかに○印をつけて下さい。費用は投稿者負担となります。

都市計画 (通巻258号) 平成17年12月

〒102-0082 東京都千代田区一番町10番地
 一番町ウエストビル6階
 (社)日本都市計画学会
 TEL 03-3261-5407 FAX 03-3261-1874

特集：都市計画における特区・提案制度

巻頭言

都市再生における都市計画と都市計画家の役割

小澤一郎 3

特集論文

「都市再生における特区・提案制度」の編集にあたって

内海麻利・河合康之 4

都市再生プロジェクトと都市再生特区

柳沢 厚 5

地域再生の系譜と展開～構造改革特区から地域再生へ～

服部 敦 9

構造改革特区の成果と都市計画・まちづくり

構造改革特区研究会 13

ドイツ・イギリスの先進的取り組みをふまえた都市再生特別地区の運用・活用の方向性

安藤準也 19

全国都市再生モデル調査における地域からの新しいアプローチ～稚内市での風雪に強いまちづくり

瀬戸口剛 24

犬山市における構造改革・都市再生・地域再生提案の実態

石田芳弘 28

大阪市における都市再生特区について

佐藤道彦 32

都市再生特別地区とサステイナブル関西の課題

塩崎賢明 37

都市再生特区の都市計画決定における提案と課題：高松市の事例 -美しい街並み形成をめざして

西郷真理子 41

提案制度と新しい公共～市民と行政の協働を支える基本概念と制度仕組み～

林 泰義 46

横浜市におけるまちづくり提案制度

秋元康幸・石津啓介 50

旬な人 輝く人

産官学、そして市民との協働のまちづくり

‐“顔”のあるまち・金沢を目指して

山出 保 58

プロジェクトノート

秋葉原地域のまちづくりについて

千代田区まちづくり推進部開発調整担当課 64

都市再生特別地区を活用した心斎橋地域の再生

大阪市計画調整局計画部都市計画課 66

都市計画行政の最近の動き

国土総合開発法の抜本改正と国土形成計画の策定について

村上威夫 68

元気ががんばるまちづくりNPO

とちぎ市民まちづくり研究所～市民力の向上と地域の縁側づくりへ向けて～

陣内雄次 72

海外特派員だより

新しいマンションの所有形態「コモンホールド」

の登場

齊藤広子 76

ニューヨーク・チェルシーで動き始めるハイラ

インプロジェクト

青山公三 77

バンコクの都市化と都市交通整備

齊藤 淳 78

都市計画 (通巻259号) 平成18年2月

特集：鉄道の連続立体交差事業と沿線地域のまちづくり

地図の中の風景 都市の正当性

佐藤 滋 1

まちづくり一期一会 帯広市のできごと

‐川上秀光先生の言葉

加藤 源 2

巻頭言

線から面へ～まちに広がるか

内藤 廣 3

特集論文

「鉄道の連続立体交差事業と沿線のまちづくり」

の編集にあたって

小谷俊哉 4

鉄道立体化とまちづくり‐都市地域の成熟時代

における課題と展望‐

浅野光行 5

連続立体交差事業制度の現状と課題、展望

‐事業制度について

松谷春敏 9

東京都における踏切対策と連続立体交差事業

藤井寛行・家壽田昌司・鈴木俊一 13

魅力ある連続立体交差化事業に向けて

山本卓朗 18

連続立体交差事業の新しい取り組みと評価について

‐人にやさしい賑わいのある駅空間の創出”

都築 正 22

[特集座談会] 鉄道の連続立体交差事業と沿線地域のまちづくり

岸井隆幸・佐々木政雄・寺田和己・森 延彦 27

まちのシンボルとしての駅、駅前空間：国立駅

の事例‐駅舎の保存運動から駅周辺のまちづく

りへの展開‐

三浦卓也 37

まちのシンボルとしての駅舎・駅周辺のあり方

事例 日向駅；地域を生かした連立事業（地域

の素材を活用した駅舎）

佐々木政雄 42

連続立体交差事業による地下化後の地上利用に

- ついてー小田急線下北沢駅周辺のケース
小林正美 48
- 鉄道高架橋のデザイン 評論システムの構築へ
寺田和己 54
- 向けて
沿線地域の環境や活性化の観点から見た連立事
業への期待 土肥美生 58
- 旬な人 輝く人
「計画」的な大学運営と「骨太の学生」の育成
小嶋勝衛 64
- プロジェクトノート
生きる力を呼び覚ますまち「照葉〈Teriha〉の
まちづくり」～福岡アイランドシティ・プロジ
ェクト～ 副島広巳 70
- 福井駅付近連続立体交差事業～JR北陸線高架化
による効果～ 福井県土木部都市計画課 72
- 都市計画行政の最近の動き
建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を
改正する法律の施行について
国土交通省住宅局建築指導課
建築物防災対策室 74
- 元気ががんばるまちづくりNPO
「種を蒔きながら」～持続可能な循環型社会を目
ざして トージバ 渡邊 尚 77
- 特定非営利活動法人 白神山地を守る会
永井雄人 80
- 海外特派員だより
官民パートナーシップによる工業都市からの
脱却 ミラノの都市再生 柳沢伸也・柳沢陽子 84
- ハリケーンカトリーナによる大災害と危機管理
対応 青山公三 85
- 台湾における都市更新の動き 黄 富成 87
- 農村計画学会誌** 2005.12 VOL.24 No.3
〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13
(目黒・炭やビル)
(財)農林統計協会内
農村計画学会
TEL 03-3492-2988
- 計報
名誉会員 故渡辺兵力先生を悼むー研究者とし
ての渡辺兵力氏ー 金沢夏樹
- 総説
グローバリゼーションと農村計画 辻 雅男 155
- 特集
グローバル時代の農村計画学ー農村計画学の史
的展開を踏まえてー
特集論文
農村政策の史的展開と今後の展望 元杉昭男 159
- 明治後期から大正にかけての都市と農村の關係
の変移ー雑誌「斯民」の記事にみる都市・農村
観の変移ー 村上暁信 169
- 特集報告
農住都市構想の現実化と発展方向 岩田俊二 177
- 明治期の農村計画ー町村是策定計画を中心にー
岡部 守・田口有希夫 187
- グローバル時代に向けた地区計画論の展開方向
ー計画技術的アプローチから行動科学的アプロ
ーチへー 星野 敏 194
- 活動報告
第3回日韓農村計画学会共同シンポジウム
国際交流委員会 206
- まちづくりむらづくり
ドイツにおける氾濫原管理計画についてー防災
と開発の調和と求めてー
ユルゲン・ヴィクセルガードナー・春山成子 210
- キーワード紹介
⑦「グローバル化」 星野 敏 215
- 日本緑化工学会誌** 第31巻第2号 2005年11月
〒156-0054 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学林学科緑化学研究室内
日本緑化工学会
TEL 03-5477-2275
- 特集「緑化工施工後一定期間経過後の事例とモ
ニタリング手法」(Ⅳ)
林道周辺における植生と鳥類相との關係
荒瀬輝夫・内田泰三 219
- 生態学的混播・混植法による自然に近い樹林再
生の評価 岡村俊邦・杉山 裕・吉井厚志 230
- 緑化法面における環境指標としての土壌微生物
相 橋 隆一・福永健司
仁王似智夫・太田猛彦 239
- 論文
壁面緑化に関する技術開発の動向と課題
鈴木弘孝・小島隆矢・嶋田俊平
野島義照・田代順孝 247
- 都市近郊林の林床管理区および短期・長期放置
区における地表性甲虫相の比較

谷脇 徹・久野春子・岸 洋一 260	thunbergii Parl.) 群落とトウネズミモチ (<i>Ligustrum lucidum</i> Ait.) 群落の出現要因	飯島和子・佐合隆一 373
法面緑化における中国産コマツナギと常緑広葉樹の混播効果に関する研究		
吉田 寛・森本幸裕 269	ヤナギ類 3 種のアーチ型さし木	徳岡正三・深田英久・塚本次郎 380
京都市内の非樹林緑地としての神社境内における草木植物の種数と種の出現パターン	技術報告	
今西亜友美・今西純一・村上健太郎	盛土のり面で森林表土利用緑化を行う際の撒き出し厚さ、施肥量、マルチングに関する検討	
森本幸裕・里村明香 278	細木大輔・米村惣太郎・亀山 章 385	
技術報告	コラム	
表土シードバンクを吹付けに活用した施工事例 (Ⅱ) - 切土のり面における施工後 3 年の植生調査結果 -	ヤブマメ 391	
小畑秀弘・谷口伸二・大貫真樹子 284	アゼスゲ 392	
河川の工事発生残土を利用した緑化の取り組み	報告	
後藤浩一・森糸真樹・平中晴朗 288	「これからの緑化工学を展望する」報告 393	
コラム 293	「学生セッション」を終えて 395	
日本緑化工学会誌 第31巻第3号 2006年2月	グリーン・エージ 2005/12月号 No.384号	
会長あいさつ 323	〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13	
2005年緑化工学会賞 324	(財)日本緑化センター	
第9期編集委員会の編集方針 326	TEL 03-3585-3561	
特集 斜面の安定と根系を巡る諸問題	緑一声・樹木医に期待する 鈴木和夫 2	
技術者交流特別セッションについて 中野裕司 328	樹木医制度創立15周年に寄せて 河原輝彦 4	
森林の持つ斜面崩壊防止機能について	15年を経て日本樹木医会はいま 菊谷光重 6	
阿部和時 330	樹木医制度15年の歩みから 中山義治 9	
斜面における樹木の根系分布 福永健司 338	愛知県樹木医会の現状と課題 大野浩暲 14	
根系深さの推定手法 長谷川秀三 346	大阪府樹木医会の現状と課題 笠松滋久 19	
パネルディスカッション「新しい地圏環境を探る - 環境・安全・情報 -」に参加して 太田猛彦 352	樹木医として自分が目指すもの 川尻秀樹 24	
特集 どうなる緑化用植物 - 外来生物法に関する報告と討論 -	弘前公園のサクラを管理して 小林 勝 26	
特集「どうなる緑化用植物 - 外来生物法に関する報告と討論 -」にあたって 亀山 章 355	サクラを守る活動をすすめて 和田博幸 28	
「特定外来生物による生態系等に関わる被害の防止に関する法律 (外来生物法)」の施行状況	身近な町医者になって 鈴木俊行 31	
長田 啓 356	樹木の診断、治療に思うこと 山田拓広 34	
外来生物対策小委員会・特定外来生物等分類群専門家グループ会合 (植物) での検討経緯と主な論点 小林達明 360	平成17年度 (15期) 樹木医合格、認定者決まる 37	
論文	根の系譜〈3〉	
瀬戸内海の半自然海岸および人工海岸に成立する海浜植生の種組成予測と健全性評価	古代農書にみる根と移植、栽培法 荻住 昇 41	
笹木義雄・柴田昌三・森本幸裕 364	森林文化の風景〈最終回〉	
東京湾岸浚渫埋立地におけるクロマツ (<i>Pinus</i>	文化を重視する林政へ 筒井迪夫 46	
	平成17年度「松保護士」認定、登録者決まる 48	
	「樹木医活動への思い」古谷信樹木医語る 33	
	平成17年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰 その3 50	
	第25回緑の都市賞 51	

	藺田 稔	4
・神宮の森林の自然と営林	金田憲明	8
・時代を貫く心の拠り所-霊峰立山	佐伯令磨	12
平成18年度環境省自然環境曲の予算案の概要		16
レンジャー便り (吉野)	熊代 哲	23
海外の公園事情		
㊸中国「シルクロードの自然保護区」	小沢晴司	24
国定公園から		
第29回・高野龍神「世界遺産に登録されて」		
	前 安昭	26
第22回自然は友だちわたしの自然観察路コンク		
ール 報告		30

国立公園 2006年3月号 No.641

巻頭エッセイ (第32回)		
「海の公園」を創る	辰濃和男	2
特集：時代の中の国立公園		
・阿寒・大雪山以降の北海道の国立・国定公園	俵 浩三	4
・太平洋戦争前後の日光国立公園	手嶋潤一	10
・レンジャーと国立公園管理-現場における組		
織や人-	佐山 浩	16
国立公園絵画を巡る物語 (一)	瀬田信哉	22
海外の公園事情		
㊸ベネズエラ「カナイマ国立公園」	城殿 博	24
国定公園から		
第30回・三河湾「アカウミガメが来る美しい海		
岸を守りたい-車両乗入れ規制がスタート」		
	佐藤 誠	26
レンジャー便り (万座)	松崎克弥	30

造園修景 (No.95) 平成17年12月

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-15-17		
堀ビル201		
(財)日本造園修景協会		
TEL 03-3262-5730		
巻頭言 景の根源は地中にあり	尼崎博正	
特集 京都迎賓館日本庭園について		1~11
造園修景の旅 (島根県)		12~16
協会の動き		18~20
本部便り		18~19
支部便り (広島県・島根県)		20
造園修景 (No.95) 平成18年3月		
巻頭言 美しいまちづくりと日本庭園		

特集 人々の心を豊かに・モエレ沼公園のめざ		
すもの		1~8
造園修景の旅 (宮城県)		9~12
協会の動き		13~17
本部便り		13
支部便り (阪奈和・兵庫県・滋賀県・東海)		13~15

公園緑地 Jan.2006 VOL.66 No.5

テーマ 都市公園と景観形成		
巻頭言		
公園都市へのダイナミズム	森 真	2
随想		
神戸市立森林植物園名誉園長として	真野響子	4
論説		
1. 景観法時代の公園づくり	蓑茂寿太郎	6
2. 都市公園と景観形成-美しい街と公園を創		
るために-	岸井隆幸	11
3. 美しい都市公園を考える	奥貫 隆	15
4. 美しいまちづくりと地域活性化	大野栄治	21
事例紹介		
①千波湖周辺地域大規模公園構想「偕楽園公園」		
	茨城県土木部都市局公園街路課	25
②「人が輝く まちづくり景観」~住民との協		
働による美しい里山景観の創出~八王子みな		
み野シティ 栃谷戸公園-		
みなみ野自然塾・八王子市街並み整備部公園課		
(独)都市再生機構		30
③歴史的資産を活用した公園とその利用-大阪		
市毛馬桜之宮公園-		
	大阪市ゆとりとみどり振興局	
	緑化推進部公園整備課	34
④歴史と緑のストックを継承する都市の公園づ		
くり-各務原市 学びの森-		
	各務原市都市建設部水と緑推進課	38
調査研究情報		
学融合と自然環境評価学の挑戦	熊谷洋一	42
報告		
①第5回IFPRAアジア太平洋支部大会 (クアラ		
Lumpur) 報告	半田真理子・森 明代	45
②2005年コスモス国際賞受賞記念講演会		
	(財)国際花と緑の博覧会記念協会	50
③「愛・地球博」報告		
	(財)2005年日本国際博覧会協会	56

TOPICS

①第25回「緑の都市賞」－明日の緑豊かな都市づくり・街づくりを目指して－

(財)都市緑化基金 60

②第4回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールについて

(財)都市緑化技術開発機構 63

③第15回「全国花のまちづくりコンクール」について

花のまちづくりコンクール推進協議会 67

④公共植栽工事に係わる植樹保険制度運用の一部改訂について

(財)都市緑化基金 70

まち・みどりの話題

①「千葉市蘇我スポーツ公園」球技場オープン

千葉市都市局公園緑地部公園建設課

蘇我スポーツ公園整備室・御都市再生機構

業務第三部公園計画チーム 71

②日本最東端の公園で見る初日の出－根室市望郷の岬公園－

根室市建設水道部都市整備課 74

③「日本で最も美しい村」連合

浜田 哲 77

①景観法運用指針と制度活用状況について

国土交通省都市・地域整備局都市計画課景観室 80

②平成16年度末都市公園等整備現況調査の結果について

国土交通省都市・地域整備局公園緑地課 82

③都市公園における遊戯施設の安全管理に関する調査の集計概要について

国土交通省都市・地域整備局公園緑地課

協会だより 89

「都市に緑と公園を」全国大会について

94

第39回公園緑地講習会開催される

95

第21回都市公園コンクール入賞作品が決定

97

平成17年度(社)日本公園緑地協会研究公募の選定結果について

102

ホームページに「会員サイト」がオープン

103

都市公園 第171号 平成17年12月

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-13-10
(財)東京都公園協会
TEL 03-3359-9281

特集 新しいみどりの創出

多様性からの緑政学 都市における多様な緑地空間の創造

進士五十八 2

みどりの新戦略と都市開発に伴うみどりづくり

北原恒一 6

緑地空間を確保するための都市開発諸制度の活用と工夫－都市開発事業に伴うみどりの創出－

事業者代表：三井不動産㈱ 11

都市開発事業に伴うみどりの創出－まちづくりガイドラインを基にした緑のネットワーク－

中嶋利隆 16

六本木ヒルズにおける緑の取り組み、質の向上についての事例紹介－計画設計から空間の演出

と管理・運営－ 塩原孝英 19

都市開発事業に伴うみどりの創出－官民をつなぐコーディネートの役割－

穴井万里・島田 潤・島田知幸 25

名古屋の都心部におけるまちづくり～オアシス21の整備について～

三宅光治 30

東京都における屋上等緑化の取り組み－制度と現状

豊福正己 35

中央防波堤内側 海の森（仮称）構想の概要－海を活かし 森をつくり 人を育てる－

加藤和彦 38

密集市街地での空間づくり

中原 昇 44

市民がつくる安全な道沿いガーデン～ストリート・オープンガーデン～

佐藤哲信 48

身近なみどりから考える景観まちづくり

窪田亜矢 52

計画・調査

屋上緑化によるヒートアイランド緩和効果について

山口隆子 54

整備

公園整備とミニ公募債－世田谷区の取組み－

水谷 敦 57

管理・運営

指定管理者－年の報告－小山内裏公園

高橋秀人 59

指定管理者としての現状と課題－清里丘の公園

小林明治 62

首都圏公園緑地9団体の「今」－(財)東京都公園協会の場合

(財)東京都公園協会 65

指定管理者に向けた東京港埠頭公社のある取組み－海の灯まつりinお台場の開催－

福地元彦 71

八王子市の公園管理（市区町村の公園管理連載第17回）

岡田多吉 76

第40回東京都公園協会賞受賞論文

東京都立庭園で販売されているオリジナルグッズに関する調査研究	井内雅厘子	81	学的解明と提言	立澤史郎	28
臨海埋立地に植栽後23年経過した植栽林における植生構造の多様性と実生出現の規定要因	李 宙營	86	海外レポート	IUGB (国際狩猟獣研究者会議) に参加して	金子弥生 32
練馬区の冒険遊び場にみる空間設定と子どもの遊びの関係	南波つかさ・山口万里子	91	ニューブランツ	キダチアロエ/ネモフィラ	白瀧嘉子 36
コラム: “ロハスなやり方”		94	話題情報		
〈まちの木〉主役それともその他大勢? ~コナラ~		95	高速道路株式会社の概要と緑化施策		38
世界の庭園と、公園と			東日本高速道路株式会社の概要と緑化施策	東日本高速道路(株)建設事業部技術グループ	40
-第15回 ハンガリーブダペストの庭園-		96	中日本高速道路株式会社の概要と緑化施策	中日本高速道路(株)建設技術部技術チーム	41
リレーコラム: 街路樹の可能性		96	西日本高速道路株式会社の概要と緑化施策	西日本高速道路(株)建設事業本部技術グループ	42
イギリス庭めぐり雑記 (第3回)		99	首都高速道路株式会社の概要と緑化施策	首都高速道路(株)建設管理部	
道路と自然 平成18年冬号 第130号第33巻第2号			技術監理室構造技術グループ		43
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-2			阪神高速道路株式会社の概要と緑化施策	阪神高速道路(株)交通環境室	44
大東ビル			本州四国連絡高速道路株式会社の概要と環境・		
(社)道路緑化保全協会			景観・緑化施策		
TEL 03-3504-0311			本州四国連絡高速道路(株)企画部調査情報課		45
論説			みちくさ		46
駅伝からの発想	南川秀樹	2			
特集					
特集「SA・PA・道の駅」		5			
北海道-有珠山SA・道の駅「なかさつない」	菅野善紀・中島 燈	6			
関東-温泉施設のあるSA・PA・道の駅	広瀬直久	8			
近畿-道の駅「東近江市あいとうマーガレットステーション」	藤関明雄	10			
心に映る道の風景 沖縄観光の魅力をつなぐルート58	岩佐吉郎	12			
緑化紹介					
【日本編】魅力ある空間・快適空間の創造を目指して	大矢光一・大岩春仁・小倉 功	14			
第22回全国都市緑化フェア「アイランド花どんたく」	辻塚義勝	18			
【海外編】第27回海外調査団報告ヨーロッパの園芸文化を訪ねて					
加藤 修・鹿間 博・関根 孝・鈴木 良		20			
随筆					
江戸・東京の「富士見」考	清水英範	26			
研究紹介					
野生動物による交通事故多発要因の生態・行動					

1. キュランダ熱帯雨林における環境価値とランドスケープ・ベクトル

中西直和 (京都大学地球環境学堂)

ALEX DAWIA

(クインズランド州政府先住民開発政策局)

DON TAYLOR

(クインズランド州政府環境保護局)

本件は豪州クインズランド州政府と共同で進めてきたキュランダ熱帯雨林における環境認識研究の最終報告である。近年、先住民と開拓移民の対立的な環境価値は錯綜状態にある。先住民・移民を問わず、キュランダ居住者は環境的よりどころ (Environmental Identity) を失いつつある。しかし、スカイレイル敷設といった環境インパクトで個々の認識は目醒めた。以下、(1)居住者のスカイレイル敷設前後の環境認識、(2)クインズランドの主要環境価値の歴史の変遷に基づくランドスケープ・ベクトルの見方、および(3)ランドスケープ・ベクトルを用いて個々における環境価値の多様の流動性を解説する。

2. 尾張藩戸山荘の「借景」に関する研究

李 偉 (総合研究大学院大学文化科学研究科)

戸山荘は江戸時代に成立した尾張藩下屋敷の庭園で、東海道五十三次の景を見立てた名園である。従来の戸山荘研究は、庭園内部の景観と歴史の変遷の究明に成果をあげたが、庭園の立地および庭園からの眺望景観には、ほとんど関心をはらってこなかった。戸山荘は前代の庭園と明らかに違う眺望法を持っており、江戸時代前期における庭園の眺望法や借景法を理解する上で、重要な意味を持っていると考えられる。本論文では、絵図や見聞記などの史料分析を通じて、戸山荘における独特の眺望法を再現し、それが形成された歴史的・文化的背景、さらには厳密な意味で借景となりえていたのかどうかを検討する。

3. 特別史跡における演劇やコンサートの開催に関する研究

中島義晴 (奈良文化財研究所文化遺産研究部)

本研究の目的は、史跡の活用という観点から、史跡等で実施されている演劇やコンサート等の催事の意義を明らかにすることである。今回は対象を特別史跡に絞り、情報収集・分析をおこなった。その結

果、各遺跡の地形や空間構成が開催地として選ばれた要因になっている事例が多いことが判明した。例えば、五稜郭跡の野外劇では濠が舞台の一部に効果的に用いられ、太宰府跡や平城宮跡の野外コンサートなどでは囲繞感や正面性が意識されている。また、遺跡を背景として活かす形が、大坂城跡や姫路城跡での薪能などにみられた。今後の課題の一つとして、これらの特徴が観客の意識に与える影響を明らかにすることが挙げられる。

4. 天王寺動物園と緑の戦略

宮下 実 (大阪市天王寺動物園)

若生謙二 (大阪芸術大学芸術学部)

天王寺動物園では1995年に「天王寺動物園ZOO21計画」を策定し、動物の生息環境の景観を再現した生態的展示手法により施設整備を進めている。環境デザインの視点にたった動物園づくりでは動物園全体に自然を再現し、貴重な緑のオアシスとして市民に憩いと潤いを提供するとともに、自然環境の認識と教育効果を高めることを目的としている。植栽デザインにより園路に緑陰を生みだすのみならず、視界から人の姿を外すという空間的手法で、多くの入園者の存在を感じさせない静穏な環境をつくりだしている。環境への認識や生き物情報の発信に加え、緑の戦略拠点としての大きな役割も担ってきたい。

5. 世界淡水魚園のランドスケープデザイン

西辻俊明 (現代ランドスケープ)

世界淡水魚園は、木曾川中州に位置する木曾三川公園の県営部分である。本公園は、敷地内の水族館や物販・レストラン等を民間が運営する民間委託型施設である。この事業上の事情から、ランドスケープデザインがいかに集客を高めることができるのがこのプロジェクトの基本課題であった。敷地の基本的特性は、中洲の平坦性にあった。いわゆる箱物施設は多様かつ特徴的である一方で、空間性に乏しい基盤であるため、これに明確な形態と質を与えることによって、魅力を高め全体性を確保した。樹木・建物・地形形態による軸状ルーム空間と、井水活用による川魚が生息できる流れである。水辺の環境デザインについては、賑わい向上と採算確保につながるという条件の上に成立する。ある種の似非

生態的河川として扱っている。本物の自然環境ではないが、利用者にとっては受け入れやすい自然感があり、事業者にとっては管理運営可能、という意味でリアルな面を合わせ持つ。所詮、作り物でしか対応できないなら、そのようにデザインすべきという姿勢が大切かと思う。子供達も当然、すぐそばを流れる木曾川本流とは違うことを身体で解っているはずだ。

6. 照葉樹二次林におけるヤマツツジおよびコバノミツバツツジの着花条件に関する基礎的研究

上原三知 (神戸芸術工科大学デザイン学部)

重松敏則 (九州大学大学院芸術工学研究院)

上原良躬

藤井義久

(九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科)

岩本辰一郎 (株エコプラン研究所)

九州地方における照葉樹二次林内の環境条件(日射量、気温)と残存する自生ツツジの着花数との関係を調査した。その結果、ツツジの花芽分化が始まる6月上旬の日射量と着花数との間に有意な正の相関関係があり、ヤマツツジは個体密度及び株立ち数が多いほど、コバノミツバツツジは各個体の幹直径が大きいほど良く着花することが明らかになった。一方、対象地の潜在植生である照葉樹が優占する暗い林分では、ほとんど着花がみられなかった。以上の結果に基づく、林内の光環境の改善により、変化に富んだ散策路の整備と、失われつつある照葉樹林帯の希少な季節景観・生物多様性の保全との両立が期待できる。

7. 都市空間における新しい緑(街のみどり)の事例的研究

熊澤未紗・濱田学昭 (和歌山大学システム工学部)

松本裕子 (田渕建築設計事務所)

都心部における緑空間の代表として、都市公園が挙げられる。都市公園の役割は、「レクリエーション」「防災」「自然」などが言われてきた。そして、市民の視点からも、十人十色の来訪理由はあるが、小さい規模でも安全で快適な暮らしのためには、都市公園は欠かせないことが調査から得られた。公園や街路樹などは、面積の確保が難しい中、近年大規模な商業施設などを緑化する「街のみどり」が出現

している。代表的な事例としては、名古屋市の「オアシス21」や大阪市の「難波パークス」などが挙げられる。これらは、従来の緑空間の意味とは別に、都市空間において新しい緑の役割を考える必要がある。その新しい緑についてこの論文では検討する。

8. 都市におけるオープンスペースの着座行為と空間構成要素の関係性について

野々村真輔

(神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科)

杉本正美 (神戸芸術工科大学デザイン学部)

都市のオープンスペースは、誰もが自由に利用できる場所である。筆者の住む神戸においても、多種多様なオープンスペースが存在しており、人々が座ったり、たたずんでいる場面に多く出会うことができる。しかしながら、都市のオープンスペースの大半は建物のおごなり空間として、利用者が全く利用できない無意味な空間として存在している場合が多い。これらの空間がより多くの人々によって、多様に利用される快適な空間へと展開されることが望ましい。そこで本研究では、神戸を代表とする三宮地区のオープンスペースを対象に、利用者の着座行為の視点から調査・検討し、着座行為とその着座空間の構成要素との関係を明確にすることを目的としている。

9. 路面電車の車窓シークエンス景観の魅力についての考察—阪堺線堺区間を事例として—

高橋論史・加我宏之・下村泰彦・増田昇

(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

本研究では、大阪府堺市北部地域を通る阪堺線堺区間を対象とし、路面電車の車窓から進行方向、直角方向に捉えられる注目されるシーンと空間の基本構造との関係性を捉え、路面電車の車窓シークエンス景観の魅力を探った。その結果、直角方向景では、常に障壁により強い閉鎖感を受けるため、景観は空間特性に支配されるものの、過密化した都市部において道路や河川の空間の抜け、公園の緑のスクリーンが魅力を高めていることが明らかとなった。一方、運転席の横に立って見る進行方向景では、常に先を見通すことができるため、空間特性を基盤として軌道線形に支配された動作の感覚、都市活動が反映されたイメージエレメントが魅力の中心となることが

明らかとなった。

10. 第23回全国都市緑化おおさかフェア（花・彩・祭 おおさか2006）

上田正敏（第23回全国都市緑化おおさかフェア
実行委員会事務局）

大阪は難波宮の造営にはじまり、太閤秀吉の時代を経、江戸時代には天下の台所として名を馳せ、常に活気あふれる庶民のまちとして成長してきたことから、歴史的・文化的なストックが数々残っている。また、1990年開催の「国際花と緑の博覧会」を契機として、公共空間、民有地における「まちの緑化」や緑化リーダー等の育成という「ひとりの緑化」を進め、新たな花緑文化のストックも備わってきた。現在、都市生活がより一層快適になるよう、都市環境の向上と都市の再生に取り組み、経済界、市民などと連携し、「花と緑・光と水のまちづくり」を進めている。その一環としてこれらのストックを活用し、「第23回全国都市緑化おおさかフェア」を開催する。

11. 大阪府庁周辺緑化の取組みを通じて

佐藤拓二（大阪府土木部公園課）

大阪府は府有施設で、民間施設のモデルとなる緑化を行います。事業は、設計・施工一括式のコンペを行い、学識経験者等からなる審査委員会で先進的かつ効果的な提案を選定し、工事を実施するものです。府庁周辺緑化については周辺のまちなみや公共施設、公園などと一体のまちづくりのひとつとして、みどりによる快適で楽しみのある景観形成と空間構成にねらいを置き、区画の芝生化のみならず、場内に樹木を植栽することや緑地帯を整備することで、既存の緑地部分との連続性を確保するなど、緑化による効果の高いものを提案していただけるよう設計条件を設定し、緑化計画に関する提案を公募しました。

12. 耐踏圧性と景観性に優れた芝生駐車場の条件について

田淵利典（和歌山大学大学院システム工学研究科）

山田宏之・中尾史郎・中島敦司・養父志乃夫

（和歌山大学システム工学部）

耐踏圧性と景観性向上効果に優れた緑化駐車場の

条件を明らかにする目的で、大阪府庁に隣接する緑化駐車場21区画において、景観性に関するアンケート調査と自動車の利用頻度調査、及び芝生の緑葉面積の調査を行なった。そして緑化駐車場を補助部材の有無、形状により類型化し分析を行なった。その結果、景観性に優れた緑化駐車場に関しては表面が均一な形状であることが必要な条件であり、また耐踏圧性に優れた緑化駐車場に関してはタイヤの通過する部分に補助部材を設置することが必要な条件であることが明らかとなった。

13. 初動期における協働事業の進め方と検証一 国営明石海峡公園神戸地区を事例として一

松本勝正（国土交通省国営明石海峡公園事務所）

国営明石海峡公園神戸地区は、まだ第1期開園前の準備段階であるが、平成11年より現在まで延べ7千人を超える方々が現地で活動されている。「それに対してくれる市民をどのようにして募集したのか、その仕組みで特に気をつけたことは何だったのか、そこから市民によるルールづくりが生まれた過程、さらに、市民の知識、技術をどう育むのか、経済的な支援はどう考えたのか」等、初動期における協働の試みを紹介するとともに、米国のNPOのパートナーシップの原則を参考にして作成した「パートナーシップ評価の指針（試案）」からこれまでの協働事業の進め方を検証してみる。

14. 森づくりによる府民協働事業の検証 一 堺第7～3区 共生の森づくりを事例として一

速水成隆（大阪府南部公園事務所）

15. みんなで創ろう都市のみどり 一中環の森づくり一

加藤 温（大阪府土木部公園課）

16. 浜寺公園「遊びの秘密基地作戦！」について

佐藤拓二（大阪府土木部公園課）

子どもの遊びを取り巻く社会的環境は大きく変化し、遊びの創造力や遊び体験を通じた子どもの知恵が乏しくなっている。遊具管理者は保護者等と連携し、利用者の視点での安全対策を講じて子どもの遊びを見守るとともに、遊びの創造力や遊び体験を促す取り組みを通じて、より一層遊具と“遊び場”事故の低減を図る必要があります。今回、参加した

子どもが遊び体験を重ねることで遊びを楽しみながら遊びの安全に対する認識を持つようになり、また大人の目が子どもの遊びを見守るようになることを目標として、遊具を中心としたレクリエーションプログラムによる安全啓発イベントを実施しました。

17. ランドスケープからの街づくり（大阪市生野区南部地区における取り組み）

西辻俊明（現代ランドスケープ）

生野区南部地区における密集市街地整備事業に緑地計画・環境計画の立場から参画。ワークショップによる広場づくり等を通じ、防災性向上や居住環境改善を基本としながら、地域本来の歴史や自然的特性を掘り起こせるランドスケープ形成を行おうとしている。時間と空間のなかに位置づけられる環境デザインにより、住み続けることのできる街づくりにつなげたいと考えている。本地区は、上町台地東端に位置することから、俊徳道・舍利寺等の歴史資源や斜面の緑に特徴がみられる。ごく身近な環境にある地域特性をベーシックな資源ととらえ、これを保全・充実させながら、新たな街の活動や整備を住民の方々の意見を聴きながら重ねてゆく手法で、オープンスペース形成を少しずつ進めてきた。これまで、面積200～300㎡のまちかど広場を中心に、市営住宅内の緑地や広場、道路の緑地などを対象にランドスケープからの街づくりが浸透するよう、デザイナー・アドバイザー・ファシリテーターなどの立場で関わってきた。今後は、これに広場の活用面からいかに街づくりを高めることができるかの視点を加えながら、さらなる進展を図りたいと考えている。

18. 瓦素材を用いた環境アートによる参加型広場づくりの検証 —南淡路市の慶野松原を事例として—

伊藤可奈子、林まゆみ（兵庫県立淡路景観園芸学校）

淡路島の南、旧西淡町で地場産業である瓦を活かしたまちづくり、住民の発意による「瓦を活かしたまちづくり協議会」の発足で、教育機関、行政と連携しながら、地元住民の手作りの参加型広場づくりを行い、完成させた。わがまちと地場産業の活性化、地域環境改善活動を前向きに実践しているまちづくり活動を検証する。

19. 「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」（通称『花プロ』）とその波及効果

速水成隆（大阪府南部公園事務所）

20. 農村地域の住民参加型まちづくり（そのプロセスと展開）～堺市東部／午池（うまいけ）地区を事例として～

山地孝之・根川利彦（緑景観設計研究所）

午池地区は、ため池群を用水源とした水田農業地帯で、平成14年度に午池の改修事業を契機に「午池水系ため池保全協議会」を発足させた。同協議会は、午池を地域環境・風景資産として位置づけ、行政の活動支援を基本に大学・コンサルの技術的アドバイスを受け、中堤周辺埋立地の利活用や農村風景との調和を基本とした将来像等を、改修事業主体の大阪府に提案してきた。平成16年度には情報発信・里づくり・農業活動の3グループを立ち上げ、会員個々の興味分野への参加を通じて地元要望であったまちづくりへと活動を発展させている。本報告では、一連のまちづくり活動のプロセスと現在を紹介しつつ、その発展要因や今後の課題を検証する。